



42:26 彼らは穀物を自分たちのろばに背負わせて、そこを去った。

42:27 さて、彼らの一人が、宿泊所で自分のろばに飼料をやるうとして袋を開けると、自分の銀が、見よ、自分の袋の口にあった。

42:28 彼は兄弟たちに言った。「私の銀が戻されている。しかもこのとおり、私の袋の中に。」彼らは動転し、身を震わせて、互いに言った。「神は私たちにいったい何をなさったのだろう。」

42:29 彼らはカナンのにいる父ヤコブのもとに帰って、その身に起こったことをすべて彼に告げた。

42:30 「あの国の主君である人が私たちに厳しく語り、私たちを、あの国を探る回し者のように扱いました。

42:31 私たちはその人に、『私たちは正直者で、回し者などではありません。』

42:32 私たちは十二人兄弟で、同じ父の子です。一人はいなくなりましたが、末の弟は今、カナンのに父と一緒にいます』と申しました。

42:33 すると、その国の主君である人が私たちに言いました。『こうすれば、おまえたちが正直者かどうか分かる。おまえたちの兄弟を一人、私のところに残して、飢えているおまえたちの家族に穀物を持って行け。』

42:34 そして、末の弟を私のところに連れて来い。そうすれば、おまえたちが敵の回し者ではなく、正直者だということが分かる。そこで私はおまえたちの兄弟を渡そう。そうして、おまえたちはこの地に入りができるようになる』と。」

42:35 それから彼らが自分たちの袋を開けると、見よ、一人ひとりの銀の包みが自分の袋の中にあった。彼らも父も、この銀の包みを見て恐れた。

42:36 父ヤコブは言った。「おまえたちは、すでに私に子を失わせた。ヨセフはいなくなり、シメオンもいなくなった。そして今、ベニヤミンまで取ろうとしている。こんなことがみな、私に降りかかってきたのだ。」

42:37 ルベンに父に言った。「もし私がこの弟をあなたのもとに連れ帰らなかつたら、私の二人の子を殺してもかまいません。彼を私に任せてください。この私が彼をあなたのもとに連れ戻します。」

42:38 するとヤコブは言った。「この子は、おまえたちと一緒にには行かせない。この子の兄は死んで、この子だけが残っているのだから。道中で、もし彼にわざわいが降りかかれば、おまえたちは、この白髪頭の私を、悲しみながらよみに下らせることになるのだ。」

ヨセフの銀のことから「神は、私たちにいったい」と、彼らの思いは次第に神様に向くようになってきたようです。まだ解決からは程遠いのですが、このよう少しでも神に思いが向いてゆくときに、何か少しずつ変わります。神様は中心に考える習慣を身に付けましょう。

かつての罪を認め、また心が神様に向いてきた息子たちは、困難な状況の中にも何とか打開を図ろうとします。父ヤコブにエジプトでのことを報告しますが、行動を共にしていないヤコブは、ただ恐れをいだき、事態を息子たちの責任にし(36節)、自己憐憫に陥っていました(38節)。

かつての息子たちは決して誉められるような信

仰ではありませんでした。一方ヤコブはヤボクの渡しでは素晴らしい神体験をしましたが、今は決断のできない気弱な老人です。大切なのは生きておられる神様との関係が、現在はどうなのかということです。過去がどうであれ今は、困難を引き受け、罪と認めて、神様を見上げつつ、なんとか最善に導かれようとする息子たちと、ヤコブとはその視点が違っています。

ルベンは、自分自身はヨセフを売ることに反対しましたが、当時の罪を自分のものと感じたのでしょう。父の責任転嫁に反論することもせず、父を説得して解決の道を探るようとしています。このように、みなを罪を自分のこととして負い、困難を引き受け、謙遜に人と関わる者は、過去がどうであれ、主の導きに沿って行くことができるのです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたその部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

